

### 経営継承のマッチングを推進!

# 京 都



## 京丹後市果樹振興協議会

# アンケート調査で果樹園50社の実態を把握

京丹後市の果樹生産者41人にアンケート調査した結果、11人が「今後10年以内に規模縮小・廃業したい」と回答。久美浜町では、園営農地(5園地)と既存園(5地区)の約50社(梨33社・ブドウ10社・桃7社)のうち、約8割で「経営継承による廃園防止が必要」と判明し、関係機関が情報



浦明団地で2倍拡大予定の岡崎さん、京丹後市果樹振興協議会

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075-441-3660

共有して借受希望者とのマッチングを推進している。この取り組みの推進母体が、昨年3月に発足した「京丹後市果樹振興協議会」だ。京丹後市果樹振興課が事務局を担当し、京都府(振興局、普及センター、丹後農研)、JA京都、農業会議が参画。実務班(10人)が中心となり、生産者の実態調査、果樹の新植・改植の推進、新規入植者の受入促進、果樹振興計画の検討などを行っている。浦明団地では、昨年、梨(ゴールド20世紀・新興・晩三吉)を中心に約2000株を経営する70歳代の生産者が「1年以内に廃業したい」と回答。実務班の聞き取りに「販路など経営内容

# 全農委会が「農業者の意見」を集約

## 21年度 13農委会が「意見書」提出



京田辺市の喜多農委会長(中央)と澤田会長職務代理(右)から上村市長に意見書を提出(昨年11月16日) 宮津市農業委員会が開催した「若手農業者の集い」(昨年8月3日)

農業委員会法38条に基づく系統組織の重点業務として、本年度も府内の全農業委員会が「農業者の意見集約」に取り組み、13委員会が施策改善の「意見書」を各市長・町長に提出した。農業委員会が集めた意見は、農業会議による京都市知事への施策提案にも活用され、関係行政機関の施策に反映されている。本年度の意見集約は、新型コロナウイルス感染症防止のため、委員の戸別訪問や農家アンケートなど、各農業委員会

## 「地区連」発の意見書を 市会 トップ会議で市長に提出

宮津市では、農業委員会が市会10カ所での「拡大地区連絡会議」を開催し、京丹後市果樹振興課の策定や今後の農業振興策に反映させるため、昨年11月15日のトップ会議で市長に直接要請した。

## 生産緑地の面積要件 300平方メートルに緩和を!

大山崎町農委会が「意見書」を提出



平井農委会長(左)から前川町長に意見書を提出(2月7日)

大山崎町農委会は、小規模な農地でがんばる農業者の期待に添って、2月7日、「生産緑地制度に関する意見書」を前川町長に提出した。大山崎町では、現在、生産緑地の指定要件が500平方メートル以上のため、営農意欲があっても生産緑地指定を受けられない「小規模な農地」の保全や、生産緑地の一部転用による生産緑地の一部面積要件を失う「道連れ解除」の発生防止が課題となっていた。そこで、今回の意見書で

は、近隣市での運用状況や町内農家の要望を踏まえて、面積要件を300平方メートルに緩和することや、営農の一体性に配慮した「街区の運用の見直し」などを求めた。今回の意見書を受けて、町条例の改正が実現すれば、生産緑地指定の対象地区が拡大し、追加指定による農地保全につながる。「道連れ解除の防止」にも効果があり、町内農家の営農意欲も高まること期待される。(大山崎町農委会)

## 女性委員が “つないで発信” 親子三代でつなぐ養蜂の技

宮津市 今中美有さん



こだわりの蜂蜜と今中さん 野田美子委員

実家の養蜂を継ぐため、継ぐ3代目で、現在、約35年前に東京から帰郷した今中美有さん(31)が、創業 子どものころから宮津の祖父父母と2代目の母を豊かに自然の中で育ち、高

## 珍しい野菜を届けたい

### 向日市 清水隆弘さん

向日市物集女町の清水隆弘さん(40)は、今年で就農5年目。家族4人で1・1ヘクタールを営農し、「農業で生き残るために、付加価値の高い野菜の生産などに、ジャンボピーマン、激辛トウガラシ、コラード、子持ち高菜など、珍しい野菜の生産に力を入れている。昨年11月にオープンした「まちでらすMUKO」(向日市観光交流センター)の農産物直売所『愛菜菜市』を活性化させるため、キッチンカーイベントや野菜・果物の予約販売を提案。アイディアマンの一面も持つ。今後の収益拡大に向けて、タケノコ・野菜・米の加工品を製造

## 農deきらきら



収穫間近のアレッタ(左)、子持ち高菜(右)を説明する清水さん



## バイエル クロップサイエンス(株) 水稻農業の取り組み

### 水稻農業の10年後の未来を変えるために。

バイエル クロップサイエンス(株) 水稻農業の取り組み カスタマーマーケティング本部長 仁木理人氏

高年齢化や担い手不足により、農家一人当たりが担う栽培面積は拡大が続いています。そのため、農作業の省力化や効率化が重要な課題となっており、特に、作業負担の大きな育苗・田植え、収穫といった繁忙期の作業を分散、効率化し、農作業の平準化を図ることが必要となります。また、法人化・大規模経営化が進んでいる中で、農業経営の視点からも、圃場や栽培技術の情報をデータとして蓄積・管理し、次代へ継承していくための仕組みづくりが求められるのではないのでしょうか。

#### 日本の水稻農業の課題について

種子処理

デジタルファーマーミング

除草剤

私たちが、雑草や病害虫防除のための農業開発を通じて、半世紀以上にわたる水稻農業が抱える課題と向き合ってきました。近年は、「除草剤の開発」を中心としながら、水稻栽培で新たな技術として注目されている「種子処理」、ドローンなどのロボティクスや雑草診断アプリを活用した「デジタルファーマーミング」など、平準化や効率化に資する製品やサービスを提供しています。

10年先を見据え、水稻の直播栽培の課題を解決したい

これからの水稻農業は、省力化と作業軽減を目的に、直播栽培にチャレンジする農家が増えてくるでしょう。私たちは、事業のコアである「農業の開発」を中心に「種子処理技術」、デジタルファーマーミングなど、新しい農業やサービスを提案することで、直播栽培を支えていきたいと考えています。雑草管理、作業時間の短縮、安全性の確保など、圃場のつひとつ問題と向き合い、種まきから収穫までをサポートする直播のトータルソリューションを提供していきます。ぜひバイエルクロップサイエンスの水稻直播ソリューションにご期待ください。

## 直播ナビ

種まきから収穫までトータルサポート。

### 2022年 水稻の課題を解決する “直播ナビ” 始動。

種まきから収穫までトータルサポート。

2022年 水稻の課題を解決する “直播ナビ” 始動。